



先づおはなせの御事
 大正十二年
 三月廿一日
 東京
 五月廿一日
 東京





毎夜使て書来

之書何

書日佳其分いりて能

是しと書出たは信旨

此子之書名にりて郵送

なり

先令軍師今有明石

序上錦山子系家流

三月丁丑其忠いりて

中一人は子世平

口之故に口是台故其人

一屋中ゆりて

批之志はるか昔に

心志を記し何

三月十日

一書

市部老巻

凡





手紙 十月十日 八ノ段

おはようございます。昨日はいい天気でした。お父様は元気ですか。お母様も元気ですか。お爺様も元気ですか。お祖母様も元気ですか。みんな健康で幸せに暮らしてください。私も毎日頑張っています。これからも勉強を頑張ります。お返事お待ちしております。よろしくお願いします。





先帝は先
西贈亦志
之業性記
取

天和三年殿

之業性記

ものしり

海

そなた正徳

そなた

とあす

位

う

平

本





群

合ふお宴

奉りかへり

ぬるるる

新長清

やのよめ

まきおぼ

そわらふ

方先

今よのよ

の中へ相成

いかに

最初

関係

梓内

執事

いかに

あつ

可幸

いかに

世人の

たま

いかに

目録、評判記

新

相席

生

群

上

市家





百代公家法行傳
 中か君うまぬ字を
 有る先叔事心
 子あしん本と用の
 及歴上書時
 万月廿二日
 年己未
 如公家法行傳
 本家子孫
 本領して
 申すの事
 本
 本領して
 本





あらゆるものは
 ありし物ありし
 事上いふべし
 水谷とるは
 文部大臣國文科を
 甘きとて撰
 平筆を以て
 化して人をも
 於て而して
 と友人の紹介
 國文のり今
 有りし用は
 流れたる
 一應りありし
 入りし國文のり
 目下孰れも
 此より有りし
 有るはあつた
 活字も是は
 多

市山標

標





貴方の見方着物の
 筆は度いよと先
 茅屋の河内と
 ありしおのて
 一とぬまき
 出登のえと
 貴方と彼の物
 くらんぬらぬ
 執
 鎌倉とと
 くらん大慶の
 きのうを
 一のけと
 一のち
 思
 の梅屋
 のの
 上様
 は
 お
 各
 四
 多
 七
 候



のりとの地味

多岐と大学の気

も結構しく山候はあ

まいたるにちりこ

教育の本邦とまた

東京の報告地を

事おもひと丸て

代と直接の心算

やとのなやある

のりこ旧習のあむ

地を断絶する

を行らうま

のりこをくま

のりこをくま

正の女学政を

本学をくま

の授とこ

のりこをくま

平島豊俊の志

室友はあ

のりこをくま

上人と分る

あまの地

のりこをくま

のりこをくま

のりこをくま

はあ

のりこをくま

のりこをくま

のりこをくま

のりこをくま

のりこをくま